

《この2人の遺言》

大橋巨泉さん(タレント・元参院議員)

ボクの父は戦争中、電車の中で「こんな戦争、早くやめればいいのに」と友人に言っただけで憲兵にひっぱられ、拷問されて、傷だらけで帰って来た。戦争とは、そんな社会になるのである。ボクらはもうじき死ぬから良いが、若い人たちはそんな国に住みたいのか!?

経済はムードをおおる手段に過ぎず、彼らが本当にやりたいのは憲法改正であり、日本を《戦争ができる国》に変えることでしょう。法衣の下に鎧(よろい)を隠しているような男(安倍)の言動にだまされてはいけません。

半藤一利さん(作家・歴史探偵)

墨子を読みなさい。墨子は、あの侵略戦争のみならずや、骨の髄から戦争そのものを嫌った。如何なる戦争にも正義はない、と説いた。戦争をなくそうと主張した。攻めるほうにも守るほうにも戦いして何一つ利するものはない、害あるのみ、と説いた。治国平天下、ヒューマニズム(兼愛)によって平和を維持して、人々を安穩幸福たらしめよう、それこそが人間のなすべきところ、と説いた。

岸田さん聞くだけはするらしい。その後が問題なのだ。地球もおかしい。冷やすのに新原発だと。原発は海水を温めるだけの機械。そうして国葬マグマが列島をもっと熱くする。(周)

皆んで選んだ 今月の秀句

民の声聞きます聞きます聞き流し
熱すぎる地球に欲しい解熱剤
国葬反対マグマじわりと噴き出した

金石北の山
小山宏助
白眞弓

◆ 目次

川柳互選・課題吟「熱」	2
自由吟	3
推薦句の短評	5
おたよりほのぼのの川柳	7
雑誌「世界」「正論」	8
亀公子の《川柳ひと言》	10
竹久夢二「東京災難畫信」⑪	11
「正論」続き	12
「戦争前夜抄」41	14
「世紀の戦争論」	16
編集後記を兼ねて	16

来月例会案内

9月例会
投稿締切
課題「刻」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

9月22日(木)
19日(月)
3句以内
5句以内

8月の例会も誌上です。

8月の
川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「熱」(互選)

一人3句以内吐

(投句14人/16人の互選)

- 1 燃えている地球の明日有りや無し 未知子
- 1 夏恒例三年振りのやばい熱気 ひろみ
- 2 熱闘の準々決勝見逃さず 尉
- 2 熱出すも休まず動く岸田君 一角
- 2₁ 笠智衆熱演などと失礼な ダン吉
- 3 外交が目的葬儀熱くない 一角
- 3 国境に熱風が吹き荒れる 宏助
- 3 熱帯夜カンボジアの子どうしてる 未知子
- 3 メディアさん熱くて冷めぬ焼け石に 高坊
- 3 球児愛し熱い監督の熱涙 ひろみ

- 3 熱戦ハコロナの熱を吹き飛ばす 尊柳
- 3 億の金こまかすとまず公私混同当たり前 ふさ子
- 3 熱意だけかうとあつさり去なされる ダン吉
- 4 毎朝バイタルチエックで戦場へ ひろみ
- 4 高い倫理感求める前にまず金だ ふさ子
- 4 スポーツもビジネスだ金の力で熱くもえ ふさ子
- 5 原子炉で焼かれないならお一人で 白眞弓
- 5 熱帯夜悪臭ついに天を衝く 亀公子
- 6 命中した戦車敵兵燃えている 撤棄
- 6 熱帯夜だがエアコンは金を食う 尉
- 6₁ 統一熱PCRで陽性です 高坊
- 6₁ 終活へ趣味に熱中する八十路 尊柳
- 6₁ 熱弁に心えて拍手だけはする ダン吉
- 7₁ 川柳の核は熱情正義感 尉
- 7₁ 悪くありませんお誘いと熱い支援を受けただけ ふさ子
- 7₂ 平和への熱情永久に失わず 尊柳
- 8₁ ウクライナ地下に群れた熱帯夜 立東爺

- 8₂ 熱くてもマスクとらないヤマトンチユウ 未知子
 9 熱出せば寝てばかりなの年金者 一角
 9₁ 熱い空ホモサピエンス絶滅種 立東爺
 9₁ 国会があたかも熱統教子園 高坊
 9₁ 熱帯で家族の夢見る白骨兵 撤乗
 10 改憲阻止熱き血潮が身にたぎる 北の山
 10₁ ザボリジ工煮えたぎってる核の熱 撤乗
 13₂ 戦争を語り黙する熱い夏 立東爺
 14₂ コロナ熱自助でどうぞと新基準 白眞弓
 14₄ 熱戦の五輪の陰でマネーゲーム 宏助
 15₃ 戦争と熱波に耐えている大地 亀公子
 17₂ 熱線が肌に突き刺す原爆展 亀公子
 17₅ 熱すぎる地球に欲しい解熱剤 宏助
 19₇ 国葬反対マグマジわりと噴き出した 白眞弓

◆点数表記について

点数右下の小さい数字は、2点句◎に推した方の数です。

◆自由吟（互選）

一人5句以内吐

(投句14人/16人の互選)

- 手の平三つ笑顔で攻めるお盆玉 ひろみ
 1 自己検査に安堵受診で暗闇へ ひろみ
 1 統一教会批判する資格有りや無し 未知子
 1 えせ宗教せすスポーツビジネス総てが弱肉強食の世だ ふさ子
 1 建前だけは太言は語そんな言葉に惑わされぬぞ ふさ子
 1 里子のボン心を満たすビタミン剤 高坊
 2 こんなはずじゃなかったとプーチン密かに思ってる 撤乗
 2 教会縁者新内閣に七人居る 尊柳
 3 いけしゃあしゃあお誘い受けただけで済むのかい ふさ子
 3 報道が言った通りと自棄つぱち ダン吉
 3₁ 統一の七人替えて八人に 高坊
 3₁ 正論を監視していた昭和史は 宏助
 4 議員の先生にはこんな偽壺売りません 撤乗
 4 国葬戦争災害までも勢揃い 未知子

4	インフレとアベノミクスと勝共と	一角	6	内閣改造相変わらずの派閥劇	尊柳
4	問題は表紙じゃないよ中身だよ	北の山	6	銃撃禍教会の縁暴露され	尊柳
4	反撃も予想しながら口籠もる	ダン吉	6	どの神を頼ればいいか多神教	立東爺
4	マスクという全体主義には目をつむり	高坊	6	釈迦の声殺すな死ぬな語り継ぐ	立東爺
4	平和なら少しぐらいは我慢する	宏助	6	政治屋が量産される日本国	未知子
4	お腹痛め産んだ感動なぜ忘る	ひろみ	6 ₁	新閣僚開き直って統一す	白眞弓
4	黙って置く家族感染食運び	ひろみ	7	座礁して積み荷がバレた安倍船団	亀八公子
4	支持率低下国葬と教会禍	尊柳	7	あの日から醜聞山のように出る	ダン吉
4	加賀市長教育長まで官僚に	高坊	7	国策にひれ伏す時計逆回り	立東爺
4	原発再稼働地球の命あと僅か	未知子	7 ₁	元総理の源泉が今現れる	ダン吉
4 ₁	反社会も票になるならまあいいか	尉	7 ₁	汚れた地球置いていくのか月の旅	撤棄
5	世界一マスク着けるも効果なし	高坊	7 ₂	参政党加賀市を狙い静々と	未知子
5	嘘八百者を政略的に国葬へ	尊柳	7 ₂	「もうかわりません」全く信用していません国民は	ふん子
5	核違法何を今更不拡散	北の山	8	怪しげなカルト供養で神と化す	撤棄
5	コロナ熱倒れる患者自助せよと	白眞弓	8	一滴の民意大河となる政治	宏助
5 ₁	国葬でインフレ隠す悪知恵が	一角	8	国葬や国に従わぬ民の声	立東爺
6	いい加減にしてくれ一から十まで金の娑婆	ふん子	8	勝共の二字がよっぽど好きらしい	ダン吉

8 一つの世も自衛を煽る権力者 宏助
 8 勝共が支配していた清和会 一角
 8 反共で見境いなしで壺に恋 一角
 8₁ 新種株文鮮ウィルスと名を付けた 立東爺
 8₁ 買いためもできないほどの空財布 一角
 8₁ ダメ国葬若きカップルデモデビュー 白眞弓
 8₂ それならば兵卒父も国葬に 尉
 9 マスメデア忖度病で濁った眼 亀公子
 9₁ プーチンの軍靴が平和踏みにじる 宏助
 9₂ 民営化今日も届かず待たせ便 ひろみ

10₂ 能弁を嘘で固めた元総理 尉
 10₂ 補聴器が平和宣言聴く八時 亀公子
 11₁ 精一杯生きて来たよと友は逝く 白眞弓
 11₁ 国葬は嘘八百に追い銭か 尉
 11₁ また名前変えねばならぬこの宗教 撤乗
 11₁ プラごみに廃墟と化した竜宮城 亀公子
 11₂ 人間界の戦争という殺処分 尉
 12₁ 底なしの壺が家庭を破壊する 白眞弓
 12₄ プーチンの野望が築く巨大墓地 亀公子
 14₃ 民の声聞きます聞きます聞き流し 北の山

◎◎推薦句への短評◎◎

◆【課題「熱」】……………

国葬反対がグマガミじわりと噴き出した 白眞弓

• 「国葬反対」の声は上昇の一途。どんなに理

不尽でも権力者はその声を無視（亀公子）

• これだけ国民が反対しているのになぜ莫大な税金を使って国葬するのか、私にはわかりません。もっともっと反対の声が強くなればいいと思っ

熱すぎる地球に欲しい解熱剤 宏助

● 今年は梅雨なしの暑さ。世界中熱波が遅い、甚大な被害拡大。解熱剤は人間の身勝手止めること(喜ぶ)

笠智衆熱演などと失礼な ダン吉

● 寡黙な名優への賛辞(尉)

平和への熱情永久に失わず 尊柳

● 目標ある一生を(尉)

戦争を語り黙する熱い夏 立東爺

● 老人の役割です(尉)

プーチンの野望が築く巨大墓地 亀公子

● いつもながらの亀公子さんの世界。延々と十字架が続く墓地を見て巨大墓地と表現(立東爺)

【自由句短評】

あの日から醜聞山のように出る ダン吉

● 「あの日から」とは元安倍首相が銃弾に倒れた七月八日。パンドラの箱を開けたように出るは出るは(亀公子)

民営化今日も届かず待たせ便 ひろみ

● 市内でも3日かかることがある。番地が少し違っても返って来たりする。おかしければ(近所で聞けば分かる)が(立東爺)

● 郵政民営化で郵便の届くのが遅いこと。そして料金は値上げ続き。腹立たしいこと限りなし(亀公子)

また名前変えねばならぬこの宗教 撤棄

● あははと笑いが出た。まことにとほけて、皮肉を込めた佳句。同人にはお怒りの方もおられようが(一角)

一滴の民意大河となる政治 宏助

● 民草の力は侮れません(尉)

民の声聞きます聞きます聞き流し 北の山

● あつてなきがごとき勝手耳(尉)

● いやあゝ見事な句。会話のような軽妙さで川柳でしか表現できない世界。鋭い寸鉄で岸田総理を刺しました(立東爺)

● 思わず吹き出しました。これが川柳(未知子)

精一杯生きて来たよと友は逝く 白真弓

【自由句感想】

今回は、私個人としては自由句のほうがたくさん私好みの川柳がありました。◎は3つにしましたが、「国葬は嘘八百…」や「嘘八百者を…」や「いけしゃあしゃあ…」なども◎にしたかったです(喜之)

【総評】

●未だ初心者ですが、川柳なのに散文になっている句が何句もあったのが気になりました。例えば、「悪くありませんお誘いと熱い支援を受けただけ」↓「悪くない誘いと支援受けただけ」ではいかがでしょうか。スミマセン(未知子)
●字数、音数、披講時の区切りなど、どう考えても破調の句が4句あります。機械的に五・七・五の遵守などは申しませんが、完成した句は声を出して読み、推敲してみませんか(ダン吉)
●シャツの上から背中を搔くよつな句、もう少し踏み込んでほしいものがしさを感しました(ふさ子)

ほのぼの川柳

仲良くて喧嘩も本気我が子達	神田鯛
ばあちゃんち泊まる泊まらぬ駆け引きだ	神田鯛
アルミ缶おいしい仕事ありがたや	神田鯛
台風に乗って熱風大雨かみなりさん	東 爺

おたより

◆岩佐ダン吉さん(大阪)より

国賠同盟大阪の理事会では、9月25、26日の石川の旅はコロナ禍や高齢もあり、最終的には15人ぐらいではないかと思っています。

◆坂本キキさんより

本当にこの日本はどうなるのでしょうか。何をしても全く平気な為政者ばかり。いい加減にしろ！市民には代わりに天罰が降ってくる日々だ。ガマンにも限界がある！ 国民よ怒れ！

◆足利尊柳さん(足利市)より

七月会報の『大炎上の「朝日川柳」 川柳精神の無理

解が原因 朝日川柳をめぐる議論」は和川柳社の面目躍如たる記事と感動的に拝読いたしました。

就きましては雑誌『世界』（岩波出版）9月号の中に関連する記事を見付けましたので引用文をおたよりさせていただきます。

* * *

『冥福の祈りを邪魔しているのはだれだ?』

国葬と眞夏の五月蠅（さばえ）について

朝日新聞編集委員 高橋 純子

〔前略〕なにより看過できないのは、いっぺんの議論もないまま、国葬を九月二七日に行うと決められてしまったことである。(略)岸田文雄首相は、自身の政権基盤を安定させるため、党内保守派に配慮して国



葬を決断したというの
が大方の見
方だ。弔問
外交への期
待もあると
報じられて

いる。(略) 約(つづ)めて言えば「現政権のための国葬」ということになる。「死者の政治利用」と言わざるを得ない。(略) 過日、七月一五日付の朝日新聞朝刊に掲載された「朝日川柳」が、ネット上で「炎上」した。(略) 次の七句を並べたことも「死者に対する侮辱だ」などと激しい批判にさらされた。

疑惑あつた人が国葬そんな国

利用され迷惑してる「民主主義」

死してなお税金使う野辺送り

忖度はどこまで続く あの世まで

国葬つて国がお仕舞いっていうことが

動機聞きやテロじゃ無かつたらしいです

ああ怖いこうして歴史は作られる

もとより時事川柳は『寸鉄人を刺す』であり、力のない庶民が権力者を切るための文芸であった(月波与生氏(つきなみよじょう)が運営する川柳総合サイト「川柳の話 満天の星」より)——というそもそも論はさておいたとしても、なにをそんなにいきり立つところがあのだろうか? たとえば少し時間をおいて読み



「朝日川柳」は
プロ・パガンダ???

尊柳さんのおたより(前出)で教えていただいたのが、「右派系の雑誌『正論』10月号に、全日本川柳協会副理事 長・江畑哲男氏が朝日川柳について書いている」という話だった。さっそく入手。

返した時、この七句のなかに、亡くなった個人を侮辱したり揶揄したりしている要素を見いだせるだろうか。失礼だ。侮辱だ。冥福を祈れ。

ああ、五月蠅い。私は——おそらく川柳作者も——冥福を祈る時はひとり静かに祈りたいのだ。それを邪魔しているのは国葬の方である。

(中略)

まさかこんなことを言う日が来るとは思ってもみな

周立東爺

かつたが、言ってしまう。少なくとも安倍氏は、戦後民主主義との闘いに実存をかけていた。岸田首相はどうだ？ 遠望するまなざしを失い、ひたすらに「保身」のそろばんをはじき、結果、戦後民主主義にのそつと刃を向けている。悲しくなるほどの舍弟しぐさ。しかもそれが、少し前まで「リベラル」を自認していたはずの人だと思えば、悲しみはいや増す。(後略)「

肩書きもさることながら、かつて小生が川柳初心者ころ読んだ江畑哲男氏が「朝日川柳」はプロパガンダだ、これは川柳ではない、と断じている。論旨も乱暴で川柳についての説明も独断と偏見に満ち、まずはびつくり。以下、おおまかに内容を紹介。

① 導入部 川柳はマイナーな文芸で「俳句 高尚、川柳 低俗」との一般的な図式を紹介。思わぬ脚光を浴びた「朝日川柳」だっ【以下12頁に続く】

川柳連作「国葬」

遠田 亀公子

亡霊に憑かれ国葬前のめり

国葬も地盤固めのセレモニー

国葬の藪をつつけば出る異臭

国葬の藪は不法投棄のごみの山

国葬にケチをつければ非国民

国葬で漁夫の利を得る裏政治

国葬で我が家の恥を晒す気か

国葬に異議を唱えて前に出る

国葬で右向け右はさせられぬ

反国葬うねりの列に入る一人

亀公子の「川柳ひと言」

石川県下で一番の川柳結社「蟹の目」の誌上大会があり機関紙743号（7月号）にその全内容が発表されている。「蟹の目」は森下冬青（明治三八年―昭和六〇年）が戦後いち早く結成、県下の川柳界をリードして来た老舗。しかし一時期の隆盛も今は他の柳社同

様老齡化と会員の減少に歯止めがかからず、またこの二、三年前からのコロナによる集会の中止続きが追い打ちになり、やむなく誌上大会の道を辿って来た感がある。冬青が「蟹の目」で掲げたのは「詩性川柳」というもの。残念ながら私の眼からは戦時下さんざん権力に言論弾圧されて来た人々の、特に川柳人の新しい時代の表現が「詩性川柳」になったことに違和感がある。番傘川柳を少し変えたくらいにしか見えないのは私の思いちがいだろうか。

誌上大会は全国の選者十一名。投句者四一〇名。課題は「雨」。次に上位三句を紹介する。

- 大賞「あなたから届いた雨を読んでいる」
- 二位「相談にくる雨の絵を見せにくる」
- 三位「あたたかい雨だ育つてしまえつ」

一人の選者六〇句×十一名だと六六〇句が選ばれていることになる。が一通り全部チェックを入れてみた。すると政治的社会的内容を詠んだと思われる句が何と何とわずか十五句だけ。「今」を鋭く切り取り、読み手に「グサツ」とくる鶴彬川柳の重要性が改めて身に湯みた。

遠田 亀公子

連載

東京災難畫信

竹久夢二

十一・待乳山

待乳山も、なまなか小唄の名所であつただけに、かうなつて見れば、なかなか哀れが深い。

二の腕にむかしの情人が萎びてゐるといふ川柳の趣きがある。

これも端唄の中にある柳島の橋本が焼けずに残つたのはいささか嬉しいが、妙見様が焼け落ちて、川向ふの雑然とした工場が総り丸見えになつたのは少からず風致を害する新東京は、まづ第一に工業部落を遠隔の地へ置かなくてはならない。妙見様の焼跡に、軽便洋服工場を建たり、橋本の向ふを張つて「すいとん五銭、牛めし十銭」の民衆食堂を建かねない、市民諸君の猛省を促す。

幸ひに災難を免れた、向ふ島の入金や水紳あたりも、大勢に促されて、廣東あたりからわんたんの板前を備ひ入れる時代が来ないとも言へない。



都新聞 大正十二年九月二十四日 月曜日

戦争前夜の竹下夢二は2020年会報9月号〜11月号参照

た。朝日川柳への非難、抗議、疑問や問い合わせが届いた。

② 川柳の基本と特徴 川柳は口語で人間や人間社会をテーマにする。例句で「見舞いには日本銀行券がよし（今川乱魚）」などをあげる。

③ 朝日川柳は三つの「あり得ない」 これは川柳ではなく、プロパガンダだ。

あり得ない 1 元総理の死去すぐに批判句が殺到したのがあり得ない。

あり得ない 2 「選句」では一つのテーマに賛否両論双方をバランスよく採るものだ。一方に

右派雑誌「正論」に書いた江畑哲男氏の表題

特集 安倍元首相なき光景

全日本川柳協会副理事長

江畑哲男

「朝日川柳」は

プロパガンダ



偏るのはあり得ない。

あり得ない 3 新聞などでは評価が分かれるテーマでは特に目配りと配慮が肝要である。

④ 以前から朝日川柳の選者「西本空人」はおかしい。しんぶん赤旗にも安倍氏受難関連の入選句はなく、よみうり時事川柳も同様なのに。

⑤ 「正論」の川柳欄「せいろん川柳」（江畑氏が選者）から、安倍事件をテーマにした秀逸句を紹介。

「巨星墜つ勝利も虚し参院選 菅原啓昭」

⑥ 過去の西本空人選の川柳をみると「世論操作の道具として川柳が便利に使われている」のがわかる。

⑦ 「川柳本来の魅力の発信を」として、二面性をもつ人間を単純に対立させるような「狭小な主義主張を押しつける道具でない」。

⑧ 西木空人氏は朝日新聞の元編集委員で「ラムニス」ト。川柳の専門家ではない。大手新聞の川柳欄でも川柳人以外の人が担当している。改善してほしい。

.....

以上、おおよざっぱに要約したが、「朝日川柳」を批判するというより、朝日新聞と西木空人氏を罵倒するための文章だったというのが筆者の感想である。

これを読んだ「和」の同人から感想Ⅱ

● 江畑さん、物を考える態度がいい加減で独善的です。ね。

● 「正論」買ったくなかったが、買ってきて一読。「正論」全体の主張と同類ですね。この本を読むと胸が悪くなりました。

後日、この江畑論文？への批判をまとめたいと思います。が、「あり得ない」と書いている話も一方的な解釈で、報道と文芸を混同している。「批判句だけが集まるのはあり得ない」と言っが、おおいに

あり得ることです。国葬反対は世論の主流、国民は国葬に怒っている。また、「選者は賛否両論双方をバランスよく採るもの」と主張するが、これは選者の立場ではない。選者は自分の川柳観で句の良否を判断するもの。バランスをとることなどあり得ない。

岩波の「世界」の高橋純子氏の小論で紹介された川柳の本質Ⅱ「川柳は『寸鉄人を刺す』であり、力のない庶民が権力者を切るための文芸であった」という点が全く抜けていることである。小生が前月の「和」の会報で紹介した「諷刺とはなにかⅡお上は人民を教化するのに対して、人民は詩でお上を諷刺し諷める。これで社会のバランスがとれる」という諷刺への理解がまったくない。川柳を語っているようで本質を避けて語らず、川柳を体制派・右派論調を補強する添え物になっている。

この度の「正論」の散文に接し、全国の川柳結社を束ねる全日本川柳協会幹部の川柳観を知ったことは収穫であった。

(了)

連載

戦争前夜抄

41

周立東爺

『世紀の戦争論』

ひとはなぜ戦争をするのか？

アインシュタインとフロイトの往復書簡

戦争前夜をテーマに戦争を追いかけて来たのが、どうしても分からないことが一つある。人間はなぜ戦争をするのか？ ということだ。

アインシュタインとフロイトの往復書簡がある。この書簡は一九三二年に書かれた。きっかけは国際連盟からアインシュタインに「今の文明でもっとも大切と思える間について意見を交換してほしい」と提案され、彼が選んだ相手がフロイトで、テーマが「ひとはなぜ戦争をするのか？」だった。

この往復書簡は公刊されたものの、公刊された翌年ナチス政権が生まれ、ユダヤ人の二人はドイツを

出る。こうした歴史の嵐の中で往復書簡は消えていった。世紀の戦争論はナチズムに握りつぶされた(文庫版解説)。

この書簡は「世紀の戦争論」とも言われ、最近注目されていて書店でも戦争をテーマにしたコーナーに文庫版が平積みされている。

アインシュタインの物理学者らしい率直な質問に対して、フロイトの心理学者らしい抽象的な回答で少々難解？でもある。簡単に以下紹介。

アインシュタインは問う。

「人間には本能的な欲求が潜んでいる。憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする欲求が！破壊への衝動は通常ときには心の奥深くに眠っています。特別な事件が起きたときにだけ、表に顔を出します。とはいえ、この衝動を呼び覚ますのはそれほど難しくはないと思われまます。これこそ、戦争にまつわる複雑な問題の根底に潜む問題です。この問題が重要なのです。人間の衝動に精通している専門家の手を借り、問題を解き明かさねばならないのです。」

「人間を戦争というくびきから解き放つことはでき

るのか？ 人間の心を特定の方向に導き、憎悪と破壊という心の病に冒されないようにすることはできるのか？」

心の専門家・フロイトは答へる。

「人間から攻撃的な性質を取り除くなど、できそうにもない！ 人間はなぜ、いとも簡単に戦争に駆り立てられるのか。人間には本能的な欲求が潜んでいる。憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする欲求が潜んでいるのではないか。この点でも、私はあなたの意見に全面的に賛成いたします。そのような本能が人間にはある。」

「原始の時代に遡ると人と人のあいだで利害対立、これは基本的に暴力によって解決されてきた。人間の場合、意見の対立は暴力以外の新たな解決策が求められてきた。」

「社会が発展していくにつれて、暴力支配から、法（権利）による支配へ変わってきた。これは多くの弱い人間が結集し、一人の権力者の強大な力に対抗したにちがいありません。「団結は力なり！」団結の力で暴力が打ち砕かれた。」

「心理学的な側面から眺めてみた場合、文化が生み出すもつとも顕著な現象は二つです。一つは、知性を強めること。二つ目は、攻撃本能を内に向けること。好都合な面も危険な面も含め、攻撃欲動が内に向かっていくのです。文化の発展が人間に押しつけたこうした心のあり方——これほど、戦争というものと対立するものはほかにありません。だからこそ、私たちは戦争に憤りを覚え、戦争に我慢がならないのではないのでしょうか。」

「戦争とは別のはけ口を見つけてやればよい。破壊欲動が戦争を産むとすれば、その反対の欲動、つまりエロスを呼び覚ませばいい。人と人の間の感情と心の絆を作り上げる」

「すべての人間が平和主義者になるまで時間がかかる。けれども、文化の発展が生み出した心のあり方と、将来の戦争がもたらすとてもない惨禍への不安、これが近い将来、戦争をなくす方向に人間を動かしていくと期待できる。文化の発展を促せば、戦争の終演へ向けて歩み出すことができる。」

編集後記を兼ねて

▼「朝日川柳批評」を右翼雑誌

「正論」に全日本川柳協会副理事長・江畑哲男氏が書き、川柳界にも火が付きました。これをきっかけにまともな川柳議論が起こればいいのですが。▼これを書いているとき、足利尊柳さんから尾藤三柳著「完全版 時事川柳」の情報が届きました。昔の書物(2012)ですが、江畑氏の主張を否定する様な内容。次「鶴彬を顕彰する会」の通信「はばたき」の購読をおすすめします。年購読／2000円です。

号で紹介。▼東京の乱 鬼龍さんから国葬反対と川柳情報が届きました。▼9月は鶴彬を顕彰する企画が高松で進んでいます。鶴彬川柳大賞も決まり、次号は鶴彬情報満載です。▼今月もまた、会報完成まで時間がかかってしまいました。例会や投句×切りが終わってから会報が届く所もあり、申し訳ないです。▼コロナ禍の中、FAXとメール、郵送での投句になり、なんとかしないといけないです。投句や投稿などご協力お願いします。会費もよろしく(周)

9月例会ご案内(毎月第4木曜日)

- ◆例会 9月22日(木) ◆投稿×切:19日(月)
- ◆課題 「刻」 3句以内 ◆自由吟:5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。
- ◆オミクロン株警戒で例会は誌上となります。

- 投稿FAX(076) 254-0762 郵送は
- メールアドレスは下段に。 下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています!

同人:4000円/年
投句/購読:2000円/年

- ◆干振込、あるいは定額小為替で郵送お願いします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30(3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kananabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰